

受けよう

肺がん
(結核) 検診

市では、他のがんに比べて肺がんによる死亡者が特に多くなっています。また、結核も日本において未だ死亡する人が出るほどの重大な感染症です。

肺がん・結核を早期発見し、大切な命と健康を守るため、この機会に必ず受診しましょう。通知が届かない人で受診を希望する場合は、連絡してください。

●検診内容

問診と胸部エックス線撮影
※本年度から喀痰検査は実施しません。

●対象者

40歳以上の人（昭和62年3月31日までに生まれた人）で、職場や病院などで検査の機会がない人

●検診料金／700円

表 令和8年度肺がん（結核）検診日程

検診日	受付時間	会 場 午前 9時半～11時半 午後 1時半～3時	検診の 車台数
9月18日（金）	午前	川前地区コミュニティセンター（大崎 263-9）※	1台
	午後	南巣子集会所（巣子 203-3）※	
24日（木）	午前	一本木地区コミュニティセンター（留が森 128-2）	1台
	午後	北部コミュニティセンター（巣子 148）	
25日（金）	午前	姥屋敷多目的研修センター（鵜飼安達 139）	1台
	午後	柳沢地区コミュニティセンター（大石渡 1522-6）	
27日（日）	午前・午後	葉の木沢山活動センター（葉の木沢山 460-1）	2台
29日（火）	午前・午後	葉の木沢山活動センター	1台
30日（水）	午前・午後	滝沢ふるさと交流館（土沢 265-3）	2台
10月1日（木）	午前・午後	市東部体育館（大崎 94-7）	1台
2日（金）	午前・午後	ビッグルーフ滝沢（下鵜飼 1-15）	2台
4日（日）	午前・午後	滝沢ふるさと交流館	2台
5日（月）	午前・午後	滝沢ふるさと交流館	2台
7日（水）	午前・午後	滝沢ふるさと交流館	1台
8日（木）	午前	あすみ野コミュニティホール（湯舟沢 222-922）	1台
	午後	けやきの平集会所（外山 204-143）※	
9日（金）	午前・午後	小岩井地区コミュニティセンター（大釜風林 18-7）	1台
13日（火）	午前	大釜地区コミュニティセンター（大釜外館 116-9）	1台
	午後	滝沢勤労者体育センター（大釜高森 58-5）	
14日（水）	午前・午後	ビッグルーフ滝沢	2台
15日（木）	午前・午後	ビッグルーフ滝沢	2台
16日（金）	午前・午後	葉の木沢山活動センター	2台
19日（月）	午前	市多目的研修センター（篠木鳥谷平 52）	1台
	午後	大沢集落センター（大沢堰合 20-3）※	
20日（火）	午前・午後	鵜飼地区コミュニティセンター（鵜飼大緩 52-6）※	1台

※ 駐車場が数台分しかありません。車での来場は遠慮ください。

●料金免除

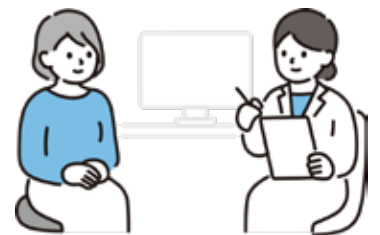
次の人は料金が免除されます。

- ① 70歳以上の人
 - ② 65～69歳の後期高齢者医療保険制度に加入している人
 - ③ 市・県民税が非課税世帯の人
 - ④ 生活保護世帯の人
- ※ ③か④に該当する人は事前に手続きが必要です。受診する

前に、必ず健康づくり課に連絡してください。

●検診日程／左表のとおり

●問い合わせ／健康づくり課
(☎ 656・6527)



9月は 「このころに寄り添い いのちを守る いわて」月間

国は9月10日～16日を自殺予防週間と定めています。本県は、全国の中でも自殺死亡率（人口10万人あたりの自殺者数）が高く、一人でも多くの自殺を防ぐため、9月を「このころに寄り添いいのちを守る いわて」月間（自殺防止月間）と定め、啓発事業・支援事業を強化して行っています。

夏休み明けの8月後半～9月は子どもの自殺が増えやすい傾向にあるため、今回は子どものこのころのSOSサインに気づくポイントについて紹介します。

●**子どものこのころのSOSサイン**
このころのSOSは睡眠、食欲、体調、行動の4つの面に出てくることが多いです。いつもの子どもの様子と違うことへの気づきが大切です。次のようなサインが続いているようなら、子どもから話を聞いてみましょう。

ー 子どものSOSサイン ー

睡眠

- ・なかなか寝つけない
- ・夜更かししている
- ・朝、なかなか起きられない
- ・睡眠のリズムが崩れている
- ・寝すぎる

食欲

- ・食欲がない
- ・食べすぎる
- ・パンやご飯、菓子などの炭水化物を欲しがる
- ・急にやせた、太った
- ・体重をととても気にしている

体調

- ・体がだるそう
- ・疲れている
- ・元気がない
- ・顔色が悪い
- ・腹痛や頭痛、めまい、吐き気などを訴える

行動

- ・学校に行きたがらない
- ・ひきこもりがちになった
- ・友達と遊ばなくなった
- ・身だしなみに構わなくなった
- ・無口になった
- ・あいさつをしなくなった
- ・何度も同じ動作や行動を繰り返す
- ・気持ちが抑えられなくなり暴力を振るう
- ・何もしないで長い間ぼんやりしている
- ・表情が変わらず、感情面での反応が少なくなった
- ・話が支離滅裂になった、通じなくなった
- ・独り言を言うようになった

●「消えてしまいたい」というサイン

一人で悩みを抱えてしまうと、思い詰め「死にたい」と思うこともあります。次のようなサインが見受けられる場合は注意しましょう。

- ・自殺をほのめかす
- ・「消えたい」と言う
- ・「生まれてこなければよかった」と言う
- ・周りに迷惑をかけていると自分を責める
- ・自暴自棄になる
- ・薬やアルコールを乱用する

このようなサインに気づいたら、その気持ちを否定するのではなく「心配している、大切に思っている」ことを伝え「消えてしまいたいほどつらい」という子どもの気持ちを受け止めることが大切です。自殺のリスクが感じられるときは一人にせず、近くで見守り、必要な場合は専門家に相談しましょう。

●SOSサインに気づいたら 【まず話を聞いてみる】

悩みがあるとき、話を聞いてもらい気が楽になったという経験は誰にでもあるはずですが、まずは不安な気持ちを聞いてあげましょう。ただし、話してこない時には無理強いせず「いつでも聞かからね」と伝え、話してくれるのを待ちましょう。

【話を聞くときのポイント】

「〇〇すべき」「〇〇してほしい」という考えがあるのは当然ですが、その気持ちは少し脇に置き、アドバイスをするよりもじっくりと子どもの気持ちに共感し、受け止めることが大切です。一緒に乗り越えていこうというメッセージが大きな支えになります。

●相談窓口

つらい症状が続いている場合は、早めに相談してみよう。相談窓口一覧はこちら

誰かに相談することが難しくても、気持ちを休める場として、いつでも立ち寄れるサイトがあります



●問い合わせ／健康づくり課
(☎656・6527)